

2018年度 菊原光治客員教授 邦楽 特別講義
～「ままの川」における奏法と地歌への理解～

1. 日 時 : 2018年10月22日(月)15時15分～16時45分
2. 場 所 : F号館106教室
3. 対 象 学 生 : 邦楽 専攻生 学内のみ他聴講可
4. 講 師 紹 介 : 菊原光治 客員教授

昭和41年 人間国宝故菊原初子師の内弟子となり、地歌三絃・箏曲の修行に入る
昭和45年 菊寺の称号を受ける
昭和46年 大阪文化祭賞奨励賞受賞
昭和47年 野川流三絃組歌及び古生田流組歌を全曲習得
昭和48年 第3回グリーンリボン賞新人賞受賞
昭和58年 初リサイタル開催、後、東京でリサイタル開催
平成4年 五代目菊原継承披露
平成5年 大阪文化祭賞受賞
平成11年 文化庁芸術祭賞受賞
現在 琴友会会長、大阪音楽大学客員教授。

5. 講 義 概 要 :

19世紀に京都で活躍した菊岡検校は、地歌の作曲者として活躍し、多くの作品を残しています。歌のない「手事」部分が、それまでよりも一層、箏と三絃の複雑な掛け合いなどにより拡大されたものを「京風手事物」と呼び、「ままの川」は菊岡検校の京風手事物作品の中でも、よく演奏される曲です。

この京風手事物の特徴を踏まえ、奏法などにどのような工夫を試みれば良いか、また歌詞にも注目し、地歌の発声での表現方法もご指導いただきます。

- 三絃と箏の奏法・・・基本と応用、音色の変化を感じる
- 前歌・後歌の歌詞についての解釈
- 歌の背景・発声・音程との関係を意識する

※なお、この特別講義の成果は、来たる11月16日(金)に常翔ホールで開催する

「第41回邦楽演奏会」にて発表いたします。